

## 国際金融パネル：望ましいアジア通貨制度のあり方について

東京大学 伊藤 隆 敏

域内貿易比率が高いレベルとなり、さらに上昇している状況では、アジアにおける望ましい通貨制度は、円を含むアジア通貨が、域内は安定、域外（対ドルと対ユーロ）に対してフロートする、というものである。

第一段階として、これは、共通バスケットを形成して、各国が共通バスケットに対して、バンド（許容する変動幅）をもって、ターゲット・ゾーンをもつことで達成される。第二段階では、これをさらに、域内の変動幅を小さくする仕組みをつくれればよい。最終段階は、統一通貨である。ヨーロッパがこのプロセスを40年かけておこなったことを考えれば、アジアにおける制度づくりは簡単ではない。乗り越えるべき問題は、まず中国、マレーシア、香港など、ドル・ペッグを採用している国において、管理されたフロート制を採用することである。そのあとで、域内の金融協力のなかで、共通バスケットの合意を得る必要がある。そのためには、バスケット制度を採用することによる、経済的なメリットを明確にすることである。